

## 第2回鳥取市地球温暖化対策実行計画策定委員会 議事録

日 時 : 平成 24 年 2 月 6 日(月) 13:00~14:40

場 所 : 市役所本庁舎 4 階第 2 会議室

出席者 : 委員

岡崎会長、林副会長、藤沼委員、杉本委員、榎委員、房安委員、清水委員、  
竹本委員、佐々木委員、外池委員、山本委員、沢田委員、手島委員、上山委員  
前田委員、森本委員

事務局

生活環境課 山本次長、山本課長補佐、佐々木主査、谷重主査、中林主査

### 1. 開会

委員交代：中国電力(株) 益尾委員から前田委員へ

### 2. 会長あいさつ

### 3. 議事録署名委員選出

房安委員、清水委員

### 4. 議事

(1) 鳥取市地球温暖化対策実行計画の策定について

発言者	発言内容
委員	p. 111 表・グラフと p. 112 グラフの民生家庭部門及び民生業務部門の排出量及びパーセンテージが合わない。
事務局	p. 111 表は、業務部門が 217 千 t、家庭部門が 260 千 t であり、パーセンテージは正しい値です。 p. 112 グラフは CO2 排出量を 100%としているため、p. 111 のパーセンテージと整合しません。
委員	p. 107(2)に第 2 期計画で 7.9%削減とあるが、それは 4 行目以降の取組みの効果で削減できたということか。
事務局	ここで言う実行計画は市の事務事業のみから発生する温室効果ガスに対する計画であり、後段の取組みとは別物です。
委員	p. 110 下表タイトルに (HFC、PFC及びSF <sub>6</sub> ) とあるが、PFCとSF <sub>6</sub> は算定していないので不要ではないか。
事務局	PFCとSF <sub>6</sub> は削除します。
委員	p. 106 には HFCs、PFCs と記載されているが、p. 110 には HFC、PFC とある。どちらが正しいのか。
事務局	資料を確認し、正しい方に統一します。
会長	p. 111~112 に温室効果ガスの排出割合、CO <sub>2</sub> の排出割合、エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出割合と出てくるが、一般市民にはわかりにくいのではないか。
事務局	市民の方にわかりやすいような表現に修正します。
委員	p. 107 に(2)地球温暖化対策の効果とあるが、これまでの取組みによる効果のことを示すのか、これからの取組みのことを言っているのか。

事務局	これまでの取組みのことを記載しているが、表現をわかりやすく修正します。事務事業編は別途作成するので、本編とは切り離して記載するようにします。
委員	今日のこの会議は実行計画策定のどのプロセスに位置するのか。
事務局	現況推計の数値報告と削減目標、具体的な施策の説明が主となります。具体的な施策についてはマニュアルや総合計画に記載のあるものの記載となっており、今後関係課と調整のうえ次回の審議会に向けて修正します。 当初示したスケジュールより遅れています。
委員	温室効果ガスの削減が進むと経済がマイナスになるというイメージがあるため、温室効果ガス削減の取組みが地域の活性化につながるというような文章があると、取組もうという意欲がわくのではないかと。 p. 123 の市民の役割に「低炭素型ライフスタイル」という言葉が出てくるが、もっと前に出てくるべき。また、用語説明が必要ではないかと。 エコフューチャーとっとりでは、地球温暖化防止活動推進センターを運営しているので、「エコフューチャーとっとり」の名前を記載して活用してもらおうとよい。
委員	p. 117 の具体的な施策に「促進します」「推進します」と出てくるが、促進するためにどうするのか。もう少し具体的に書けないのか。 市民・事業者の取組み方針に「心がけましょう」「努めましょう」とあるが、市はどういう関わりを持っていくのか。
事務局	施策については、今日の資料では大まかなところを記載しています。今後具体的な数値目標や施策を示していきます。 市民アンケートでも幅広いPRをするようにという指摘をいただいております、反省して改善したいと考えています。
委員	p. 115 に①～③で部門別に記載されているが、「民生業務部門」がない。 市民・事業者の取組み方針に「努めましょう」とあるが、計画は計画らしく、啓発用はもっと具体的にしてはどうか。 LED など新しいことも書いてあるが、今後は EV 車（電気自動車）も重要になるのではないかと。 p. 119 4) 循環型社会の形成は、書式が間違っている。 p. 124 推進体制の市民 WG に「点検・評価を行う」とある。これは推進体制か。 p. 124 進捗管理 2) に鳥取市地球温暖化対策推進協議会というものが出てくる。手島委員の意見と関連するが、推進体制の記述が足りないのではないかと。
事務局	p. 115 は民生業務部門については何もなくてよいという意味ではないが、誤解のないように修正します。 EV 車については、p. 117 の低公害車・低燃費車に含めているが、EV 車という言葉を出すかどうか検討します。 推進体制と進捗管理については判りにくい箇所があるので、整理してしっかりと推進体制・進捗管理を行います。 言い回しについては検討します。 EV 車については、降雪が多い等の鳥取市の地域性や設備等の問題もある。HV 車との使い分け等の文献もあり、単純に EV 車を進めるというのも疑問に思っている。 p. 116 の廃食用油のバイオディーゼル燃料としての再利用と記載しているが、新しい排ガス規制法をクリアできないという問題があるため、この部分について

	はもう少し検討をしたいと考えています。
委員	p. 116 にごみを燃料とするごみ発電に取組むとあり、p. 120 にはごみの発生抑制とある。矛盾しているように感じるので、もう少しわかりやすくした方がよい。災害廃棄物の処理や広域行政管理組合との関連も出てくるとよい。
事務局	考え方としては家庭ごみについては減量化・資源化を進め、それでも出てきたごみは発電に利用するという事です。 河原町に建設を予定している新しい施設は、従来の衛生的な処理に重点を置いたものから、資源循環に方向を変えています。
委員	p. 120 に 3 R とある。県は 4 R、進んだところでは 2 R もあるが、統一はしないのか。
事務局	4 R の啓発が足りないということもあるが、市民へのわかりやすさを重視して 3 R としています。
委員	p. 123 の本市の役割に「地域住民に」と出てくるが、事業者に対して市はどのような対策をするのか。
事務局	検討して記載します。
副会長	具体化できることに事業者が取組んでいかなければと思っている。
事務局	事業者側からのご提案等ありませんか。
委員	p. 108～109 に算定式があるが、灯油や LPG には排出係数だけ掛ければよいのではないか。 p. 109 に自動車台数からメタンの排出量を算定しているが、自動車が走ればメタンが出るのか。
事務局	マニュアルを確認し、必要があれば修正します。
委員	p. 117 に公共交通機関の利用とあるが、電車に自転車を積めるようになるとどこにでも行けるのではないかと考えているが、そういうことは無理なのか。
会長	今日は時間が少なくなったので、気づいた点はメモでも電話でも事務局宛に提案してもらい、次回の会議資料にできれば反映していただくということでどうか。
委員	地域の実情を考えたものをもっと盛り込んでほしい。鳥取市は運輸部門が多く、公共交通が少ないから自家用車を使わざるをえない状態である。これからの計画は車社会を前提にしたパーク＆ライド等鳥取市の実情を踏まえたものにしてほしい。
委員	温暖化対策を取るとどのように経済が良くなり地域が活性化するのかという事が姿として出てくると、普及啓発も進めやすいのではないか。
委員	目標値は実現可能なものでなければ、計画だけで終わってしまう。
委員	エネルギーは使うけれども二酸化炭素の排出は減らし、ある程度の快適さは確保するという計画であることを認識してもらう必要がある。